

行政視察報告

総務産業建水委員会



京都府向日市(令和元年11月7日)

京都府向日市は、面積において全国的にも3番目に小さな市であり、古墳が点在し、JR線駅・阪急京都線駅が2駅と通勤・通学型都市です。環境美化に対する市民意識の高揚を図り、市と協働して良好な生活空間を創出する目的として、「道路美化ボランティア推進事業」を始められ、活動団体に予算の範囲内において支援をし、競輪選手会等の会社も参加されて、地域のイメージアップ、散乱ごみの減少とポイ捨ての啓発になっているとの事でした。

三重県いなべ市(令和元年11月8日)

三重県いなべ市は、自動車関連企業等が進出し活力ある町であり、住み良さランキング三重県1位です。市内の中学校吹奏楽部から楽器購入予算確保依頼を受けたが、高額の為特別扱い出来ず、検討・調査をして「楽器寄付(物納)」と「ふるさと納税」を組み合わせた全国初「楽器寄付ふるさと納税」を発案され、感謝の心と笑顔溢れるまちづくりの醸成を図り、楽器を手にした生徒の笑顔の写真が印象的でした。当市においても実情調査・検討をしたいと考えます。



文教厚生委員会

羽島郡岐南町(令和元年11月18日)

岐南町は、平成25年度より東海3県で初めて、小・中学校給食費無料化を実施している。子育て世代の経済的負担を軽減し、児童生徒に感謝の心と郷土愛を持ち、将来は町の支え役になってほしいとの思いで導入されている。このことにより、定住効果、地域の活性化に繋がっている。効果として子育て世代が、住みやすい町と情報発信するなどして、人口の増加に貢献している。この事業は、子育て世代に優しい環境づくり、定住施策の一環として参考になった。



大阪府柏原市(令和元年11月19日)

柏原市は、平成18年、内閣府の「生きる学力育成」小・中一貫教育特区認定を受け、平成24年に全中学校区において小・中一貫教育を展開している。学校、家庭、地域のつながりの必要性を感じ導入された。教育委員会として、幼小中が連携し教育の方向性を共有し、子ども達が義務教育を終える15の春に、将来への夢と希望を持ち巣立つことを目指している。その環境づくりとして、各中学校区に11名の幼小中一貫教育推進教員を配置し、教育環境の充実に努めている。